社会福祉法人鶴風会

後援会ニュース

No.30（平成五年）

社会福祉法人鶴風会
後援会
東京都武蔵村山市学園4-10-1
☎0425-61-2521
事務所・東京都中野区
本町2-15-13☎03-3372-7650

いよいよ、念願の工事が始まります。今号は施設長よりあえて、きびしい施設の現況報告を掲載致しました。皆様の深い御理解をいただき、共に施設の建設に邁進願えればと存じます。

又、重症児の『生命の輝き』を伝えて下さった林大介くんのお母様の手記を載せております。御覧下さいますように。

施設の現況報告

東京小児療育病院
みどり愛育園
施設長　鈴木　康之

梅雨の合間の青空が広がってきました。暑い夏も間近になりました。

全面改築という変化の時期を迎え、これからも、"障害児の生命と、豊かな生活のための療育実践"を続けてゆきたいと思います。ここで施設の現状と今後の方向について、ご説明したいと思います。

〈新しい施設に向けて〉

療育施設のこれからについて、私どもが願うことは幾つもあるのですが、行政に取り上げていただくに至っておりません。しかし、今の施設が法制化されるまで、何年もの経過を経て現在に至っております。これからも、"在宅支援のための施設、障害児者の豊かな生活を援助できる施設"、そのために医療も教育も福祉も一体となった制度、社会を求めてゆきたいと思います。

具体的には、"超重障児"の認定と制度化、訪問看護や訪問健診など在宅支援業務の発展、在宅支援のための施設利用の安定化、解放型施設の運用など、いくつかの課題をこなしながら療育拠点施設としての役割を担いたいと思います。

〈施設の現状〉

昨年度の施設運営も、皆様方のご協力にも関わらず大幅な赤字となってしまいました。医療費改訂の無い今年は、もっと厳しいことが予想されます。このままでは民立民営施設である私どもは、数年以内に運営が困難になるかも知れません。いくつもの民立施設が同じ様な状態にあると聞いております。

地域の障害児の医療と生活に必要なことを実践してゆく、最低それが維持できるように訴えてゆきたいと思います。職員はじめ関係の皆様には、より一層のご協力をお願い申し上げます。

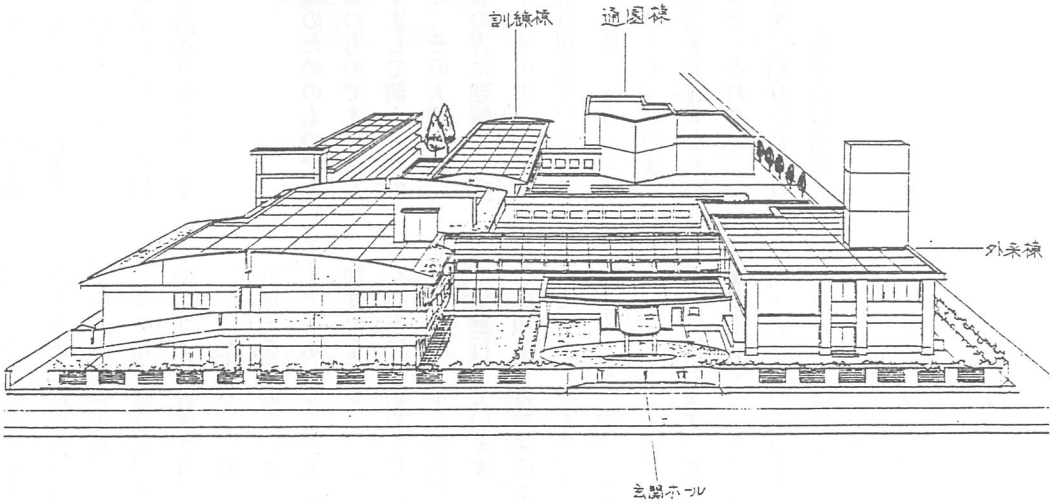
現在私どもの経費は、医療費と措置費が主な収入です。収入の約七〇％弱が保険診療報酬であり、約三〇％前後が施設に対する措置費という行政からの費用です。一％ほどが補助金・助成金・寄付です。補助をいただくにも助成を受けるにも、殆どの場合約1―4以上の自己資金を必要とします。

これは医療収入などから補塡するしかありません。この他の資金はないのです。

この意味で、運営は公的資金で行われているといえるかも知れません。これしか収入がないのですから。しかし実際にかかる経費がこれでまかなえるはずはありません。実際に公立施設の収支バランス（赤字額）は私どもの全予算を超えています。児童一人あたりの予算は、私どもの五割以上高い実態です。

完成予想図

平成5年7月着工～平成8年3月完成



私たちも同じように、障害児療育に取り組んでいるのですから、かかる費用は同じはずではないかと思うのですが……。

私どもは障害児者のために必要と思う業務を、制度の枠にとらわれずにできる限り実行したいと考えます。規定どおりの運用では、すべての障害児の個別の問題は解決つかないと思うからです。実際にそのように一生懸命に療育に励まれる父兄や職員の姿を見る度に、せめて赤字でなくなる程度の予算基準に近づけていただけないものかと思います。

〈これからの施設の目標〉

これからの障害児療育拠点施設の課題は、

一、入所施設における療育生活を充実させて、正常の生活に近づけること、

つまり利用者の選択性のある、豊かな人間尊重を大事にする施設生活ができること、

二、医療体制が充実し、しかもそれが在宅支援にまでカバーされること、

三、医療だけでなく、幅広い療育援助が障害児の全生活を支えること、など。

これらの根本にあるのは、障害児者の意向の尊重であり、尊厳の保持に対する施設の責任の明確化であると思っております。

これらの課題を経費的に、人的に、設備的に制約が大きい中でどうこなしてゆくのか、何もかも足りない中からどう作り上げてゆくのか、気が重い感じがします。しかしそれを必要とし切望している障害児者の方々の前に、職員としてよりも、同じ人間として何ができるか、問われているように思えてなりません。この仕事は利潤を生むものではなく、収益性で評価されるものではないのです。その目的は人権の尊重と人生の豊かさを求めることです。対象とする障害児者の豊かさと権利がどれだけ守られているか、日々の職員としての関わりの中に、障害児者に対する尊厳を忘れてはいないかという問いかけは、常に自問してみることが必要でしょう。

そして、豊かさは別の次元のことを求めると思います。権利に付随する言葉は義務です。権利を求めれば、それにともなう義務を担います。でもその段階では豊かさは感じられないでしょう。心の触れ合いと思いやりの気持ちがあれば、それに応えるのは感謝の気持ちになります。そこにより以上の豊かさが生まれると思うのは、私だけでしょうか。

限られた人と設備の中で、理想とするような一人一人への対応が完全にできるはずはありません。

「遅れてごめんね」、「待たせてごめんね」、「できなくてごめんね」、と言う言葉が意味するもの、それは実際に行う以上の豊かさを生じることもあるのではないかと思うのです。少しでもという努力の一方で、子供達の要望を受けとめているということが、共感を伴った理解をいただけるのではないでしょうか。

求めることで豊かになるのでとなく、与えるほどに豊かになること。同じ人間として、兄弟としての存在になること、それが福祉の原点であると思えるのです。そんな原点を忘れずに、療育生活を援助する施設を目標にしたいと思います。

〈施設建て替えの推移とご協力のお願い〉

この八月から、本格的な第一期工事に入ることになりました。詳細な計画の詰めがまだ残っておりますが、簡易プールの設置なども行えると思っております。工事期間中の安全と、療育業務の維持に努めてゆきたいと思います。

問題の資金計画ですが、

予定総額　約三四億円

（自己資金約一八億円）

予想補助金　約一七億円

（国・都を合わせて）

現在の積立総額

約七億五千万円

（内、六億円弱は土地売却）

今のままですと大幅な借り入れを余儀なくされます。今も既に、通園棟・看護宿舎の借り入れ返済があり、その財源であった養護学校への借地は売却されております。

約一〇億円の借り入れは、年間約五千万円の返済義務を意味します。

施設は子供達のためのものであり、社会のためのものです。法人のものでもなくまして個人のものでもありません。その大切さは、すべての関係者の方に理解されているところです。その方々が皆で施設づくりに取り組んでいただくしかないと思います。現在、以下の募金活動が展開されております。皆様にも、ご協力をお願いしたいと思います。また、それぞれご協力いただける方をご紹介いただければ幸いです。（お申込は病院2F、経理課まで）

① 社会福祉法人鶴風会後援会…従来の後援会。施設整備・運営のすべての援助をします。中野区本町の倉島医院に本部があります。

② 賛助会…建て替え資金募金のために組織された、五年間限定の会員組織です。会社など法人会員が主ですが、個人会員も募っています。

③ 東京小児療育病院・みどり愛育園後援会…施設の外来・通園の父兄を含めた後援会。当面、建て替え資金に会費を充てています。

④ 募金箱…随意に、それぞれの協力者により設置されています。置いてくださる方、置いていただける場所を求めています。

⑤ テレホンカード販売…募金用に50度カードを一、〇〇〇円で。多くの方にお勧めください。

⑥ ミニバザー…院内や地域の各地で随意行っています。食品や新品の衣類などの物品の寄贈をお願いしています。また、売り手としてのご協力もお願いします。

⑦ バザー…今年は九月二六日（日）に行います。養護学校体育館をお借りすることになりました。品物・売り手のご協力ください。

⑧ コロニスの会…一二月に予定されています。帝国ホテルのチャリティーパーティーです。

大介の思い出

林　多恵

一九八四年の冬は雪が何度も降ってとても寒い冬でした。その年の元旦の夕方破水してしまい、病院についても陣痛がなかなか起こらず、多量の陣痛促進剤を使って、難産の末二日四時五十五分に大介は誕生しました。か弱く「ふぎゃー」という泣き声の後、「男の子ですよ」と助産婦さんに取り上げられた時、『ボクの事よろしくね』とでも言うように片目をつむってウインクしている顔が、今でもはっきり目に浮びます。五日目に黄疸が出て光線療法を一日受けましたが、七日目には普通に退院する事ができました。然し寝ている事が多く哺乳力の弱い大介は、授乳にも時間がかかり大変で、体重計とにらめっこの毎日でした。

一ケ月たつ頃、大介の誕生が嬉くて、今迄の人生の中で一番の喜びでこの世の生命あるものすべてがいとおしく、道端に咲く小さな花にも感謝したい気持でした。でも大介がどこかおかしいのではと感じ始めたのもこの頃でした。二月の寒い中あちこち病院を回った揚句、生後二ケ月で『ＥＩＥＥ』という難病と診断され、東邦医大大森病院へ入院いたしました。毎日二時間電車を乗り継ぎ、母乳を冷凍して持ち病院に通いました。主治医に発作が止まりにくく重い障害を持つという事、退院はありえないという事、日本では十人位しか症例が無くあまり長くは生きられないだろう等を、少しづつ知らされました。わが子の背負っている運命の過酷と行先どうなるのかという不安な気持、又どうしてこんな事にという気持ちが入り交り、足が宙に浮いている日々でした。でも、病院のベットで寝ている大介は本当に可愛いくいとおしく、この気持だけでこれから先どんな事があっても頑張れるように思えました。

一ケ月たち、四月に近くの国立武蔵精神神経センターへ転院させてもらいました。寒かった冬もしだいに春めき、病院の庭で日光浴したり、先生方の歌声に合わせ見様見真似で揺さぶり遊びをしたり、乾布摩擦をしたり、ベビーバスで毎日お風呂に入れたり、朝から夕方まで大介と過ごしたくさんだっこもしました。この幸せも束の間で六月半ば、一日に何回とある発作を止めようと薬を次々と試していく内に『ＡＣＴＨ』という強い薬を使う事になりました。

発作が止まったのは二週間、徐々に副作用が出てきて頭が痛いのか、激しく泣いたり突っ張ったり全身汗びっしょりになったり、とうとう脳が萎縮して水や血液がたまって硬膜下血腫になり、呼吸困難を起こして府中の神経病院へ救急車で運ばれました。大泉門から注射針を刺し頭にたまった水を抜いたり、チューブを通し水を外に出す手術をしたり、その水をお腹に流す為チューブを体に通すシャント手術をしたり、チューブから菌が入り詰まってまた取り出す手術をしたり、最後には頭を大きく開けて、被膜や血の塊を取り去る手術をしました。朝一番の手術で朝から夜中迄ＩＣＵの待合室で待機しました。大介が貧血になり、一度に二〇ＣＣから三〇ＣＣ、注射器一本分の血液を毎日主人と私と交代で輸血する事になり、昼の面会時に輸血しても、夜九時頃又輸血をとの電話で急いで病院に馳けつけた事もありました。又主人は早朝病院に行き採血してから出勤という事もありました。ＩＣＵで人工呼吸器やモニター等をつけた大人の患者さんに交じって、裸で保育器に入っている生後七ケ月の我が子を二度とこの腕で抱く事ができないのではと何度も思いました。小さな体で頭の手術を一ケ月の間に五回も乗り越え、大介の生命は何かの使命を持って生まれたかの様に力強く回復して行き晩秋には退院できる迄になりました。

それから週一回の訓練と暖かい日にはお散歩し夜は添い寝と、ごく普通の当たり前だけど夢に迄見た生活が始まりました。春、大介一才四ケ月で東村山市のあぬみの家へ通園できるようになりました。それからは先生方、お友達、皆様のお蔭で大介の世界はどんどん広がりました。遠足や川遊び、運動会、砂場遊び、電車やバスに乗ったり、買物にベビーカーで行ったり、普通の事が一つ一つ心配を伴い成し遂げた時は涙が出る程でした。大介は事ある毎に感謝の心を教えてくれました。そして大介二才三ケ月の春、あゆみの家や家族や、周囲の人達に助けられ、首の座らない大介を抱え乍らも第二子に恵まれた事は一生忘れ得ぬ事です。

三才半の時肺炎になり、夜中に武蔵野赤十字病院へ馳け込み『朝迄持つかどうか』と迄言われ、人工呼吸器につながれ、一ケ月間家族が交代で病院のソファに泊まり込みました。またも生命の危機にさらされましたがこの時も何かの使命があるかの様に回復に向いました。その後調子が悪く入退院を繰り返し、この間経口ネラトン法を習い、誤飲する危険があるのでクリニミールというミルク状のものを注入する様になりました。三才の時、東村山から立川へ引越した為あゆみの家が遠くなった事と体調が悪い為、四才の時はあゆみの家をやめ、東京小児療育病院の訓練に週一回通い、訪問看護婦さんに週一回来ていただき、病院も武蔵から東京小児にかわり、夜は酸素吸入をして眠りました。

五才で東京小児の通園に、始めは週一回、秋から週二回、他に訓練へ週一回通う事になりました。通園では母子一緒に体操したり、大介をだっこして一緒にクッキーを作ったり工作したり、行事を通してお母さん方と親しくなり、あっと云う間に一年が過ぎました。三・四才の頃に比べずい分丈夫になり外出や旅行もできる様になりました。調子の良い時は一日一回ぐらいドロドロ状の食事やヨーグルトも食べられました。反面呼吸状態は余り良くなく、仰向けに寝ると舌根が落ちて苦しそうで横向きに寝せたり、姿勢に気遣う様になりました。就学相談の時は大介

が学校に通学できるのか、先生方と相談し色々悩んだ末、通学を希望しました。六才の春に入学許可がおり、都立村山養護学校へ入学出来ました。入学式の日、大勢の先生方が玄関で『お早うございます』と声をかけて下さり不安もやわらぎました。学校での運動会、遠足、学習発表会等の行事を通して先生方のパワーに親子で勇気づけられました。休みがちの大介でも先生方は可能性を信じ、真剣に取り組まれ小さな変化にも気づいて下さいました。家にいては受けられない色々な刺激を与えてもらいました。本当に感謝で一杯でした。

出産の為、一月から九月まで大介を東京小児療育病院に預かっていただきました。入院する頃より大分呼吸状態が悪く、週末に外泊する晩はとても心配で、あごを前の方に出すようにして寝かせました。アデノイドが大きくなり呼吸が苦しいとの事で府中の神経病院で手術しました。手術直後は調子が良かったのですが、また呼吸状態が悪くなりポーテックスを使用はじめました。以後呼吸は随分と楽になった様です。九月に家に戻り学校へも週に二日、三日、四日と体調をみながら通いました。ポーテックスをしているため食事が口からとれず、午前中で早引きをしていました。こうして丸一年生後間もない妹の育児と、弟の幼稚園の送り迎え、大介の送り迎えと無我夢中で過ごして来ました。

ようやく末の妹も歩き始め、大介も落ちついてきて、これからも頑張らなくてはと車椅子の手入れやら二学期の準備を済せ、久しぶりに学校に行くという日の朝、突然『お母さんもういいよ！ボク行ってくるから』と言う風に天国に旅立ってしまいました。いつも家族五人で部屋に寝ていて、夜中に発作が頻発したり、その為に吐いたり、呼吸が苦しそうだったり、痰がからんでゼロゼロしたり、その度に気配で起きて、座薬を入れたり、姿勢を変えたり、吸引器を使ったり、発作や咳が続く時は眠るまで抱いているうちに夜が明けたり、でもこの日は誰も起こす事もなく急性呼吸不全の為に一九九二年九月二日、ちょうど八才と八ケ月の生命を終えました。

主人とよく大介を抱っこし、その寝顔を見ながら『大ちゃんて本当に可愛いね。大介は天使のようだね。きっと何かのはづみで羽がとれて私達の所に落ちてきてしまったんだね。だから人間の言葉が解らなくって、うまく気持ちを伝えられなくて困っているんだね』と話したものでした。ただ『でもいつかこの子は神様の所へ返さなくてはいけない』と感じた事もありました。看護婦さんに『大ちゃんは元気だったらとても優しい子よ』と言われた事があります。こういう子達にもいろいろ性格があるそうで大介は優しい子だそうです。

大介は本当に気持ちよさそうに寝る子でした。けがれの無い可愛いい寝顔を見ると心がやすらぎ私たちの家族の宝でした。お風呂が何より好きで入るとフワーと表情がなごみ気持ちいいなという感じで口をムニャムニャさせたり、ドライヤーで髪を乾かすとき風に反応して目を細めるのがかわいくて、調子の悪いとき以外は毎日入りとても幸せな時間でした。大介は身動き一つできなかったのに沢山の人を動かしました。一番動かされたのがお母さんで次にお父さん…大介のお蔭で私は、本当に沢山の人に出合う事ができて励まされ色々な事を考える充実した時を持てました。大介の下に二人の子どもを生んで、大介にはお母さんをとられて寂しい思いや、一人の時より手厚い面倒を見られずつらい思いもさせましたが良く頑張ってくれました。下の二人とも十カ月位の時の初めて言葉が『ダイチャン』でした。二人目の裕司は大介と共に生きる中で私の心の支えになってくれ、三人目の美緒には大介のいなくなった今心をなぐさめられしっかりせねばと支えてくれます。大介のような子供を育て乍ら下に二人もの健康な子供に恵まれる事ができたのは、周囲の方の多大な助けがあったからで本当に感謝しています。

時折こんな事も考えました。こんなに重い障害を持って、体を動かす事も、声を出す事も、笑う事も、目で見る事も出来ず、意識さえはっきりせず、こんなに自由を奪われてこの子の生きている意味は何だろう。この子には生きている意味はないのだろうか。こんなに頑張っている大介の生命とは何だろう。でも大介が肺炎で人工呼吸器につながれている時先生が『大ちゃんを見ていると僕も頑張らなくてはといつも励まされるんですよ』と言って下さいました。そうだ、こんなに重い障害を持っていても生きようと頑張っているって事を誰かが感じてくれるだけでもすごい事ではないかと気づきました。大介の生きる意味はそこにあるのだと思いました。大介を人前に出したらかわいそうとの声もありましたが、こんなに頑張っているのに家にとじこめてはいけない。私が外に出さなくてはと考え時には大介が外に出る事が負担ではないかと思い乍らも体調の許す限り旅行にも行き公園や買物にも連れて行きました。そして大介が亡くなった今はっきり気がつきました。何より大介の生命は、両親そして特に私の為に、励まし慰めるため、精一杯輝いてくれていたという事を……

最後になりましたが今まで大介を看てくださり、関わってくださり、かわいがってくださり、さすったりだっこしたりしてくださったり、優しい言葉をかけ私たち親子を励まし勇気づけてくださったお医者様や看護婦さん、数多くの先生方おか母様達やお友達、そして私たち親子の周囲の方々に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。この感謝の気持が大介がこの世に生きた証となって、何時までも私たち家族の心の中に生き続けますよう祈ります。

御報告―賛助会―

施設の建て替え資金の募金として賛助会費に御協力戴いておりますのは、平成五年六月現在

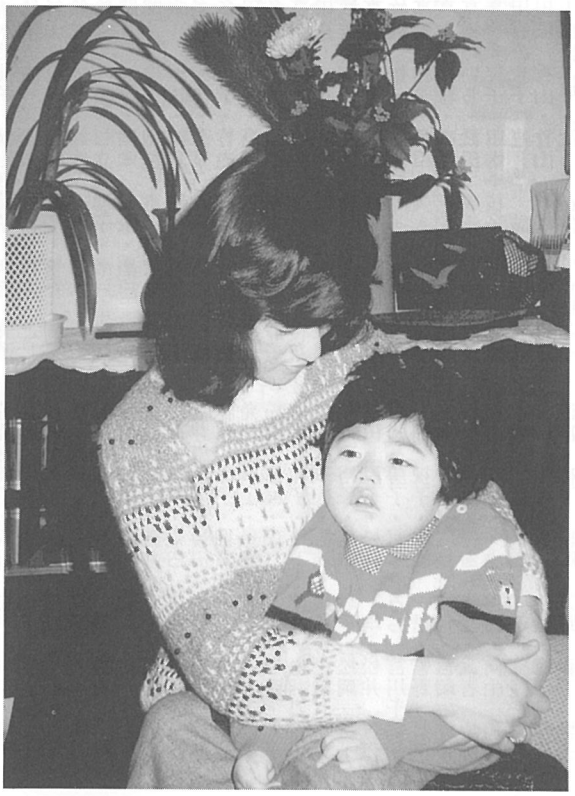
企業　三七社
個人　八九名

多くの方々の御芳志に深く感謝致しまして、厚く御礼申し上げますと共に、今後とも御協力を賜わりたくあらためてお願い致します。

吉岡弥生賞　受賞

当会理事長　倉島摂子先生には東京小児療育病院、みどり愛育園の充実と発展の為に、長年全力を盡くしてこられた功績を評価され本年五月吉岡弥生賞を授与されました。先年受けられました医療功労賞に引きつづき再度の受賞であります。

先生は『この賞はひとえに当施設の障害児・者の為に、筆舌に盡くせぬ努力を重ねて下さる職員の方々、又施設の運営に心からの御支援、御協力を下さいます各界の皆々様の御厚情の賜物』とされ、今回も報奨金の全額を法人に御寄付下さいました。

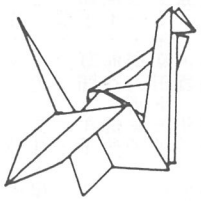


お母さんに抱かれてごきげんの大介君

東京都知事賞受賞

給食係長　大塚　周二様

平成四年十一月二十一日、都庁におきまして、集団給食栄養改善知事賞の贈呈式がありました。この賞は、優良な集団給食施設（以下給食施設という）および給食施設に勤務する、優良な栄養士に対して、贈られる賞です。



☆御寄附振込方法☆

後援会ニュースと合わせて郵便局の振込用紙のみを同封致しておりますが、銀行の方が御便利の方は下記へお願い致します。

○三菱銀行中野支店
（店番一五一）
○普通預金
○口座番号　四一〇七二三五
○口座名　社会福祉法人
鶴風会後援会

♡　チャリティ・バザールへのお願い　♡

日　時　平成５年９月26日（日）　場　所　東京小児療育病院隣接の養護学校体育館

昨年のチャリティ・バザーには、多くの方々や協賛会社の御支援によりまして、６００万円余の純益をあげる事ができ、誠に有難く、施設の全面改築の資金として大切に役立たせて戴きます。厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い致します。食料品、調味料、酒類、石鹸、洗剤、陶、漆品、文房具、書籍、衣料品（新品又は新品に近いもの）など御寄贈をお願い申し上げます。

○御寄贈品は既に受付ております。

○連絡先　病　院　武蔵村山市学園４－10－１　☎０４２５（６１）２５２１
後援会　東京都中野区本町２－15－13　☎０３（３３７２）７６５０

♧　第５回チャリティ・パーティ　コロニスの会への御誘い　♧

第４回コロニスの会は、昨秋、帝国ホテルに６００余名の皆様がお集まり下さり、盛会裡に４００万円の純益をあげる事ができました。一重に、ご協賛下さいました企業、御参集の皆様の御厚情の賜物と一同感謝致しております。益金は施設の建替資金として大切に役立たせていただきます。本年は草笛光子さんを迎えて、趣向をあらたに楽しい一夜をと企画しております。年末のお忙しい時期ではございますが、お誘い合わせ、御参加下さいます様、お願い申し上げます。

日　時　平成５年１２月８日（水）
場　所　帝国ホテル（孔雀の間）夕刻より
予定人員　６００名

連絡先　鶴風会後援会　コロニスの会
東京都中野区本町２－１５－１３
☎０３（３３７２）７６５０

鶴風会後援会ご寄附者御芳名

平成五年三月～七月
延五二八（敬称略）

安藤まさ子・赤司　俊雄・天野まき子
天野多賀子・安倍　マサ・姉小路和子
青木悦子・阿部　賢晤
秋山延子・新戸久代・阿部　淑子
新井幸子・青木純一・恒子・新戸　青子
朝倉キク子・阿部正和・阿部俊雄
足立憲章・秋山尚美・阿部雍子
芦矢京子・安西美代・井上瑞穂
伊藤禮子・五十嵐いづ子・磯サワ子
北寿子・石川静子・石田文枝
稲葉真理子・井上裕子・石田キク
石原純・石原たけち・井上種子
居合寿子・伊藤蔦子・今野綾子
岩崎由紀子・飯野龍吉・石塚敬直
今井まつ江・池田喜久子・今村貴美子
井上礼子・今井貞子・石川巌
今井一男・井上照子・伊東モト
伊藤文子・今井草子・内ケ崎仁子
牛込荘一郎・漆畑修・上木艶子
臼井彰・梅田正法・梅田みほ子
氏家エイ子・上野貞茂・宇野明彦
臼井重三・江口環禧・江川恵基
江部寛・荏原光夫・小川再治
小川昭子・小森禎子・大森文江
及川貞・小岡良枝・大脇照・大熊進
岡野嘉門・織畑秀夫・沖津くら
君代・大脇・小澤一男
奥田忍・岡村シマ子・沖野佳子
大関該一・岡田さと子・小野和郎
原忍・大谷宏明・小野
小野丞二・大谷輝雄
住一雄・奥山・大日方惟忠
奥村研三・奥村俊一・大野麗子
大橋和男・岡本信子・大野益之
大内平二・荻原泰務・岡山哲廣
大久保秀夫・川村登美・大滝悦生
勝目三枝子・亀井英子・釜萢志子
柿添璦子・菅森勝士・金親敬子
河津緑・門屋数子・神田敏
兼松晴彦・亀谷俊也・柏崎正
片岡信代・加藤貞子・加藤光子
笠原克・川崎喜久子・風間操
川野典・加藤洋一
川上まりえ・勝目宏・金田忠史・梶尾高根
神田明・菊地久子・鹿島田律子・河原佑子
木村甲子郎

社会福祉法人鶴風会へ寄附者・企業・団体御芳名

平成四年四月から五年三月
（前号掲載分を除く）
延一二四件（敬称略・順不同）

立川酸素㈱・拓洋物産㈱・武村青果
㈱日本ヘア・サプライ
日本グラクソ㈱・東京不二電機工業㈱
柴田電機商会・光電メビコ東京㈱
三共㈱立川出張所・鈴木助成事業団
㈱ヤクルト本社医薬品部東京営業所
国立厨房サービス㈱東京都共同募金会
調布市社協ボランティアセンター
前川報恩会・松の花基金・七重会
マルビシ中央・東京善意銀行・宮崎
中野区保健衛生研究会
日本チャリティ協会
コロニスの会・宮寿会・塩野義製薬㈱
㈱フジミ・藤永製薬㈱・豊成工事㈱
武陽交通㈱・不二薬品㈱・東海薬品㈱
エムエムシーアジアパシフィック㈱
富士リネンサプライ㈱
東急運輸㈱労組・㈲キモト・㈱一富士
ナガイの白衣・東急運輸㈱
三菱信託銀行立川支店
安藤明子・有井利子・安部井
井瑠美子・阿曽滋子・今井徹
知佳・青木晃・石川原
石川きみ子・石原明
海老原明次・井上美奈子・石川昭子
大田原真理子・小川和榮・織田
小畑恵子・小俣喜久子
小川孝一・大脇照枝・大塚
笠井ヒロ子・加藤喜美子・金森
川合正雄・門脇恵津子・木下美代子・金子康子・勝士・周二・秀夫

山川昌一・矢崎宏子
山木茂子・山田政子・谷口レイ子
山口登代・山出量子
山田和江・山下育子・山本和賀子
山田規子・山中千鶴子
瀬川マサ子・山本年子
山口宗之・山崎郁子
山田登代・山出智子
山木智政・山崎義郎
山川茂子・柳沢博子
由布吉・水城和子・横手渡辺和子・横山古都江・横沢寿子・横山俊洋子・横山敏江・横山和・横山ヒデ子・横手渡辺嘉子・横山元伸・米沢杏子・米山彦・米沢マチ子・米山ちとせ・米山方子・米沢ちか・米山梓子・米沢幸子・米山純一・米沢恒子・米山淑子・米沢博・米山博子・米沢信子・米山義郎・米沢郁子・米山勇子・米沢由美子・米山よし子・米沢智子・米山出・米沢山崎・米山中本・米沢吉見・米山本・米沢吉松・米山出・米沢山崎・米山中・米沢和枝・米山正征・米沢良美子・米山照子・米沢西平・米山志津子・米川シン・中村一男・中西登美子・中村きよ枝・中村つ子・中川温・中村公子・中山成田みつ子・中山並木恵・中里美子・中里厚・中村尚登・中谷名取誠二・中村徹・中野加寿枝・中川伸行・中川克彦・中村光彦・中澤弥生・新谷芳子・西原・西岡将・西崎修・西沢丹羽・西田額田・野沢隆寛・野沢和弘・野沢募金箱・野沢トヨ子・野沢ゆきの・野口道子・野口みち江・野呂靖子・畑谷イソ子・蜂谷一・萩原マチ・羽根田道代・早原千鶴・早川浩市・坂東孝・嫩葉・芳賀恵美子・東野寿美・日野樋口・平山玖美子・平田飛見・廣野恵三・平沢福子・深見利子・福永光子・福井恵美子・福田和子・福田嘉子・藤井京子・藤原幸子・藤原瑠璃子・発地玉枝・松岡・松田澄子・丸山和子・的場八千代・松野裕子・松浦美代・松下・松井馬嶋順子・松岡均・松井千鶴子・松橋昌子・松井寿美子・松岡栄子・本田美代子・星野和子・堀友之進・福田和子・福田健・藤田よし江・藤田江・府川則子・古川寿子・栄福子・平田澄子・平井真・平出美枝・平岩扶美子・平出光・早川澄子・早川芳江・坂東嫩葉・浜田雅・濱田孝・林一郎・原敬・橋本静子・橋本フジ子・野口鉄也・野呂美子・野村和子・野沢和枝・野沢良美子・野沢照子・西平守夫・中村志津子・中川シン・中西登美子・中村一男・中谷きよ枝・中村つ子・中島温・中山公子・中里厚・中里恵美子・永澤信子・永沢康滋・長岡貞雄・中倉千鶴子・中根幸枝・中山直喜美子・中井年子・中島文子・中平貴子・長野素子・土肥久子・豊島久次・出口豊・戸沢瑞穂・冨岡富山佐起子・寺澤清子・坪井康次・土屋英子・豊田道子・出溝昭子

東京小児科療育病院みどり愛育園ご寄附者御芳名

平成五年二月～六月
延八六名（敬称略）

雨倉一欣・青柳利一・秋吉勝久
新井博己・伊藤治男・井上武士
稲毛義幸・榎本純夫・江田登茂治
大川貞治・大野掛川・木村葉晃・木崎川嶋幸雄・大月ひろみ・信雄
鎌田たへ子・笠原哲夫・小堀浩・小嶋伸江子・是枝誠・太郎・百恵・昭
鴻池守・佐伯幸子・佐藤茂秋・斉藤君枝・坂井惣・太郎登
須藤洋治・宣・須藤征一・鈴木勝太郎
鈴木勲・祥子・杉本佳枝・須田正弘
清宮・関口真李・瀬野善美・関口国男
関根雅弘・関口善美・高浪裕子
武井幸恵・高橋咲緒・竹中幸宏
田中千鶴子・田島利子・田中敏勝・高本和昌
田所孝生・田中英雄・高橋江
虎瀬康雄・永井喜三郎・中里由
中村美香・服部佳奈子・長谷川理枝
橋本強一・林満・船橋壽子・福山・萬羽孝昌・竜一
平田知佳・林満・船橋壽子・福山・萬羽孝昌・竜一
府中共同作業所・保坂・松岡・忠孝・山本果・奈湖・山下・本木・三橋・公夫
摩尼英晴・松永稔・宮崎ミヨコ・幸子・利夫
前田原・宏五・哲夫・洋・三浦・順子
三浦康子・松永・三浦保・守田・山本・矢島・吉永
村田・昭男・雄二・仁
薬袋・安川・吉野
菊池希壽・倉島撰子・佐藤政治・南・小
佐藤艶子・坂田百合子・展啓
新谷静子・白木善四郎・菅井敏宏
鈴木良孝・鈴木トキ・中島英子・信成・関口千代子・鈴木佳津江
鷹羽咲枝・二宮博・長嶋シゲ
千木良清・文乃
西野喜美・原口千鶴子・浜口照子・堀内千鶴子・宮田妙子・端田誠子・増田・日野・浜野沢・永井・中島・鈴木・白木善・坂田百・合子・斉藤八重子・桑原章吾
花野雅方・野沢・良雅・孝子・宮田・泰三・端田・清子・松橋・望月・山口・博喜・賴瀬・清子・笑子
林勘・雅子・良美・高和・康子・敬・高橋・山根・森田・水戸・松岡・清子・山嶋・大月・江田・是枝・木崎・木村・百恵・昭
松尾多希子・勘子・祐司・孝子・堀内千鶴子・誠子・優子・功
宮崎信子・柳沢博子・律子・山根・森田・水戸・松岡・端田・増田・日野・浜野沢・永井・中島・鈴木・良孝・白木善・坂田百・合子・斉藤八重子・桑原章吾
長谷川利三郎・馬場利・長谷川・敬・松岡・清子・端田・泰三・宮田・祐司・孝子・堀内千鶴子・浜口千鶴子・原口千代子・関口千代子・鈴木佳津江・菅井敏宏・佐藤正彦・斉藤八重子・桑原章吾
千木良良・鷹羽・鈴木トキ・新谷静子・佐藤艶子・小南政治・佐藤撰子・倉島撰子
楽満礼子・藤崎きよ・龍